

有価証券報告書

事業年度 自 平成28年4月1日
(第76期) 至 平成29年3月31日

アマテイ株式会社

E01368

第76期（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し、提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

アマテイ株式会社

目 次

	頁
第76期 有価証券報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	6
5 【従業員の状況】	7
第2 【事業の状況】	8
1 【業績等の概要】	8
2 【生産、受注及び販売の状況】	9
3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	10
4 【事業等のリスク】	11
5 【経営上の重要な契約等】	12
6 【研究開発活動】	12
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	13
第3 【設備の状況】	15
1 【設備投資等の概要】	15
2 【主要な設備の状況】	15
3 【設備の新設、除却等の計画】	15
第4 【提出会社の状況】	16
1 【株式等の状況】	16
2 【自己株式の取得等の状況】	19
3 【配当政策】	20
4 【株価の推移】	20
5 【役員の状況】	21
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	23
第5 【経理の状況】	28
1 【連結財務諸表等】	29
2 【財務諸表等】	57
第6 【提出会社の株式事務の概要】	70
第7 【提出会社の参考情報】	71
1 【提出会社の親会社等の情報】	71
2 【その他の参考情報】	71
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	72
監査報告書	
内部統制報告書	
確認書	

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成29年6月28日

【事業年度】 第76期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

【会社名】 アマテイ株式会社

【英訳名】 Amatei Incorporated

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藪内 茂行

【本店の所在の場所】 兵庫県尼崎市西高洲町9番地

【電話番号】 06(6411)1236番(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理本部長 石野 栄一

【最寄りの連絡場所】 兵庫県尼崎市開明町2-1-1 神鋼建設ビル8F

【電話番号】 06(6411)1236番(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理本部長 石野 栄一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第72期 平成25年3月	第73期 平成26年3月	第74期 平成27年3月	第75期 平成28年3月	第76期 平成29年3月
売上高 (千円)	5,075,580	5,352,316	5,126,798	5,213,130	5,114,808
経常利益 (千円)	71,876	35,205	22,912	69,908	147,021
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	51,477	25,367	58,873	149,749	112,232
包括利益 (千円)	47,106	39,067	127,678	110,842	109,997
純資産額 (千円)	854,008	865,916	993,496	1,104,301	1,156,028
総資産額 (千円)	4,860,906	4,845,290	5,106,764	5,012,105	5,161,329
1株当たり純資産額 (円)	67.17	68.02	78.16	87.32	95.56
1株当たり当期純利益 (円)	4.20	2.07	4.80	12.21	9.40
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	17.0	17.2	18.8	21.4	21.8
自己資本利益率 (%)	6.4	3.1	6.6	14.8	10.2
株価収益率 (倍)	16.67	39.61	22.71	8.03	12.77
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	345,506	59,383	150,321	120,086	268,792
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△90,914	△144,833	△252,204	41,850	△147,362
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△210,557	△52,545	111,910	△158,562	△10,163
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	585,559	447,563	457,591	460,965	572,231
従業員数 (人)	173	178	175	171	172

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれていません。

2 第72期、第73期、第74期、第75期及び第76期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第72期 平成25年3月	第73期 平成26年3月	第74期 平成27年3月	第75期 平成28年3月	第76期 平成29年3月
売上高 (千円)	3,991,577	4,272,628	4,014,498	4,142,804	4,139,855
経常利益又は経常損失(△) (千円)	74,818	25,368	△2,031	69,449	149,294
当期純利益 (千円)	57,304	17,216	40,409	158,226	121,172
資本金 (千円)	615,216	615,216	615,216	615,216	615,216
発行済株式総数 (千株)	12,317	12,317	12,317	12,317	12,317
純資産額 (千円)	654,896	684,346	763,065	883,844	946,094
総資産額 (千円)	3,774,419	3,741,421	3,828,783	3,728,272	3,902,457
1株当たり純資産額 (円)	53.37	55.78	62.20	72.04	80.40
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	— (—)	— (—)	— (—)	1.00 (0.00)	2.50 (0.00)
1株当たり当期純利益 (円)	4.67	1.40	3.29	12.9	10.15
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	17.4	18.3	19.9	23.7	24.2
自己資本利益率 (%)	8.8	2.5	5.3	17.9	13.2
株価収益率 (倍)	14.99	58.57	33.13	7.6	11.82
配当性向 (%)	—	—	—	7.8	24.6
従業員数 (人)	105	107	105	103	107

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれていません。

2 第72期、第73期、第74期、第75期及び第76期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【沿革】

年月	経過
昭和24年12月	株式会社 尼崎製釘所として資本金1千万円にて発足 〔創立の経緯〕 明治34年尼崎に設立された岸本製鉄所が当社の最前身であります。明治44年5月合資会社岸本製釘所として分離独立の後、昭和12年5月株式会社尼崎製釘所(資本金20万円)に改組。昭和16年9月株式会社丸紅商店、株式会社岸本商店、伊藤忠商事株式会社と合併して三興株式会社となった後、昭和19年9月呉羽紡績株式会社、大同貿易株式会社と合併して、大建産業株式会社を設立。昭和24年12月大建産業株式会社が再建整備計画により4社に分離された際、現在の丸紅株式会社、伊藤忠商事株式会社等と同時に発足したものであります。
昭和32年12月	尼崎商事株式会社を設立
昭和33年11月	釘、鉄線、針金、有刺鉄線JIS表示許可
昭和35年10月	尼崎鋼業株式会社を設立
昭和36年10月	東京営業所開設
昭和36年12月	大阪証券取引所市場第二部に上場
昭和39年6月	輸出貢献産業に認定
昭和40年8月	尼崎鋼業株式会社を合併
昭和42年3月	福岡出張所(現 福岡営業所)開設
昭和44年6月	商号を「アマテイ株式会社」に変更
昭和45年10月	名古屋出張所(現 名古屋営業所)開設
昭和48年11月	福崎工場(兵庫県神崎郡福崎町)開設、本社社屋新築完成
平成5年9月	アマテイサービス株式会社を設立
平成10年7月	株式会社接合耐力試験技術センターを設立
平成10年8月	工業用ネジ分野の市場拡大を目的として株式会社ナテック(現 連結子会社)を第三者割当による増資引受けにより子会社化
平成11年10月	株式会社接合耐力試験技術センターがアマテイサービス株式会社を吸収・合併
平成13年10月	アマテイ・テクノ株式会社を設立
平成18年1月	アマテイ商事株式会社の営業の一部をアマテイ株式会社に譲渡
平成18年4月	中国・北京達瑞興釘業有限公司社と技術指導契約締結
平成18年6月	株式会社接合耐力試験技術センターがアマテイ・テクノ株式会社を吸収・合併
平成19年4月	アマテイ商事株式会社を吸収・合併
平成25年7月	大阪証券取引所と東京証券取引所の現物市場統合に伴い、東京証券取引所市場第二部に上場
平成27年5月	福崎工場(兵庫県神崎郡福崎町)を売却

3 【事業の内容】

当社の企業集団は、「建設・梱包向」として普通釘、特殊釘、各種連結釘、建築用資材、釘打機等の製造・仕入・販売を主な事業とする当社と、子会社2社(株式会社ナテック、株式会社接合耐力試験技術センター)及びその他の関係会社2社(伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社及び株式会社神戸製鋼所…当社は当該会社の関連会社である)で構成されています。(平成29年3月31日現在)

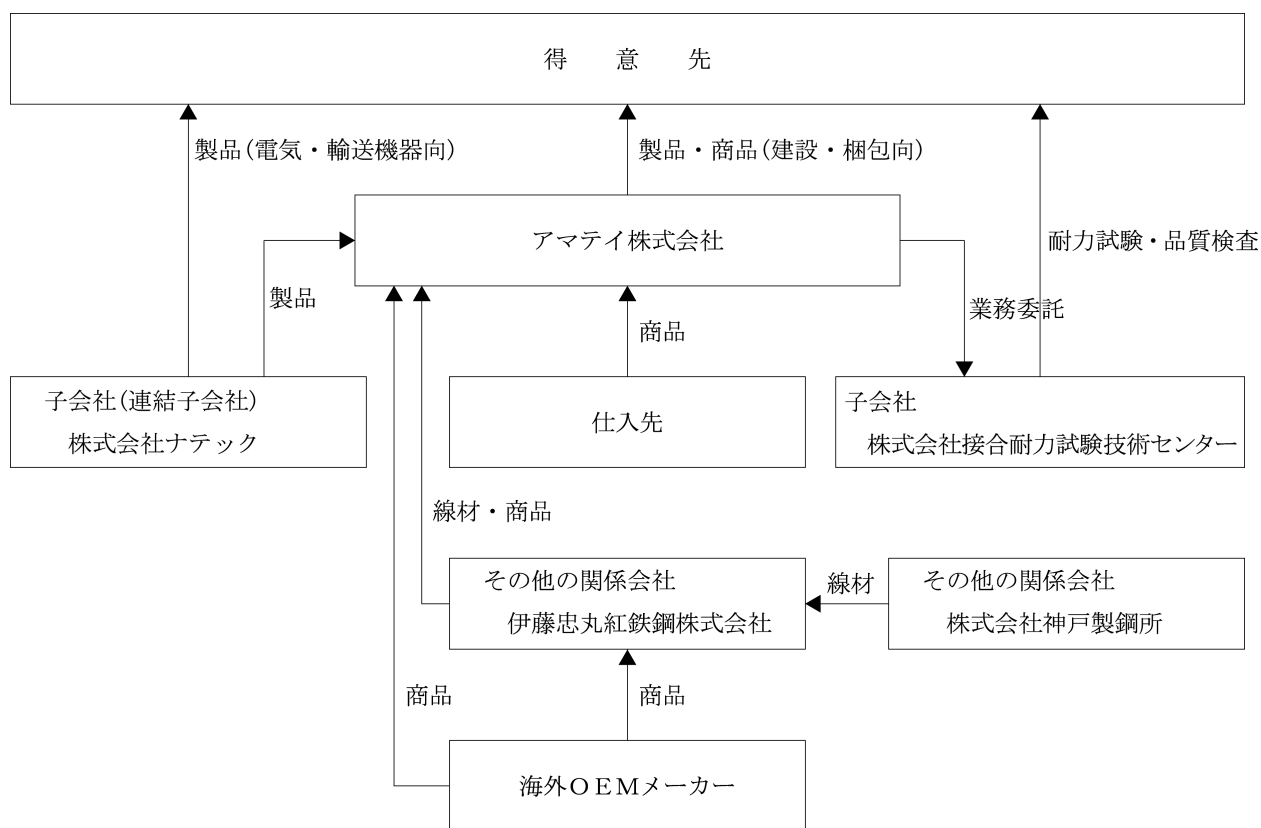
当社は株式会社神戸製鋼所等から、伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社を通じて主原料である線材を仕入れています。

連結子会社の株式会社ナテックは、「電気・輸送機器向」に精密機器用ネジ、自動車部品用ネジ、樹脂用ネジ等の製造・販売を行っています。

株式会社接合耐力試験技術センターは、土木建設材料・建築金物等の強度・物性・安全性の調査研究、耐力試験及び品質検査を行っています。

(注)「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 (重要な後発事象)」にあるとおり、当社は、株式会社接合耐力試験技術センターを、平成29年4月1日に吸収合併いたしました。

企業集団内での事業の系統図は次のとおりです。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有又は 被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株ナテック (注)1.2	埼玉県草加市	96	ネジ製造業	85.0	資金の貸付を行っています。 役員5名の内、当社役員3名が兼任 しています。
(その他の関係会社) 伊藤忠丸紅鉄鋼株	東京都中央区	30,000	鉄鋼商社	(被所有) 26.6	原材料及び輸入品等を購入していま す。 執行役員2名が当社役員を兼任して います。
株神戸製鋼所 (注)3	神戸市中央区	250,930	鉄鋼業	(被所有) 22.0	原材料の供給を受けています。 執行役員1名が当社役員を兼任して います。

(注) 1 特定子会社に該当します。

2 連結子会社である株ナテックは売上高(連結相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えています。

主要な損益情報等	(1) 売上高	株ナテック 989,339千円
	(2) 経常損失	2,665千円
	(3) 当期純損失	11,055千円
	(4) 純資産額	188,506千円
	(5) 総資産額	1,312,746千円

3 有価証券報告書の提出会社であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成29年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
建設・梱包向	97
電気・輸送機器向	65
報告セグメント 計	162
全社共通	10
合計	172

(注) 従業員数は就業人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成29年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
107	43.6	14.2	4,198

セグメントの名称	従業員数(人)
建設・梱包向	97
全社共通	10
合計	107

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいます。
 3 全社共通は、総務及び財務等の管理部門の従業員であります。

(3) 労働組合の状況

提出会社の労働組合はJ AMに属し、組合員数は67名であります。

なお、労使関係については円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

連結子会社である㈱ナテックには労働組合はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、企業収益や雇用環境の改善が続くなか、政府の経済政策や金融緩和政策の継続により、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、英国のEU離脱や米国の保護主義的な諸政策への転換憶測、また中国をはじめとする新興国の景気減速への警戒感等から、国内景気の先行きは不透明な状況となっております。

このような事業環境のなか、当社グループ(当社及び連結子会社)の主たる事業である建設・梱包向のうち建設向は、平成28年度の新設住宅着工戸数は97.4万戸(前年度比5.8%増)と特に、住宅着工利用関係区分での貸家・一戸建ての伸びが大きく、釘の需要環境は良好に推移いたしました。一方、電気・輸送機器向は、弱電・OA機器向け及びゲーム機器用ネジは、中国での現地調達化が定着し、国内での需要は低調であり、価格競争も激しくなるなか、事業環境は依然厳しい状況が続いています。

この結果、当連結会計年度の売上高は、5,114百万円(前年度5,213百万円、1.9%減)となりました。営業利益は、昨年末からの原油・鋼材価格の値上がりにより、原材料価格は値上がりしているものの、生産性の向上による製造原価単価の低下や製造コストの低減効果等により159百万円(前年度84百万円、89.0%増)となり、経常利益は、147百万円(前年度69百万円、110.3%増)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損失として固定資産除却損8百万円と100%子会社(非連結)の株式会社接合耐力試験技術センターの保有株式評価損6百万円を計上し、法人税、住民税及び事業税が23百万円であり、繰延税金資産を建設・梱包向は6百万円計上し、電気・輸送機器向は5百万円取崩した結果、112百万円(前年度149百万円、25.1%減)となりました。

当連結会計年度におけるセグメント別業績は次のとおりであります。

(建設・梱包向)

建設・梱包向セグメントは、住宅着工利用区分のなかの持家・貸家等の木造住宅の伸長もあり、釘全体の需要は大きく増加しましたが、当社においては、昨年末まで為替の影響もあり、輸入商品の一部で販売価格が下がり、価格競争が激しくなったことにより、釘の販売は伸び悩みました。利益面では、昨年末までの資材価格の安定と生産性の向上による製造原価単価の低下や製造コストの低減効果等により、増益となりました。この結果、当セグメントの売上高は4,138百万円(前年度比0.1%減)となり、セグメント利益は前年度に比べ95百万円増加し、360百万円となりました。

(電気・輸送機器向)

電気・輸送機器向セグメントは、弱電・OA機器向け及びゲーム機器向けネジの中国での現地調達化が定着し、国内での需要は低調でありました。需要の落ち込みに対して、4月より8月にかけて、休業による生産調整を実施し、労務費を含む製造コストの低減を行いました。この結果、当セグメントの売上高は、975百万円(前年度比8.8%減)となり、セグメント利益は前年度に比べ2百万円減少し、1百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、営業活動により268百万円の収入があり、投資活動により147百万円、財務活動により10百万円の支出があったことにより、資金は前連結会計年度末に比べ111百万円増加し、572百万円となりました。

・営業活動によるキャッシュ・フロー

建設・梱包向、電気・輸送機器向ともに売上債権が増加し、たな資産が減少し、また、税金等調整前当期純利益が131百万円、減価償却費が162百万円であった等のため、営業活動で得られた資金は268百万円となりました。

(前連結会計年度は120百万円の収入)

・投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出が109百万円、無形固定資産の取得による支出が22百万円等であったため、投資活動に使用した資金は147百万円となりました。(前連結会計年度は41百万円の収入)

・財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金を新規に580百万円借入れ、返済による支出が531百万円であり、自己株式の取得による支出が46百万円等であったため、財務活動に使用した資金は10百万円となりました。(前連結会計年度は158百万円の支出)

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績及び仕入実績

当連結会計年度における生産高及び仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高及び仕入実績(千円)	前年同期比(%)
建設・梱包向	3,246,486	△4.9
電気・輸送機器向	808,791	△18.0
合計	4,055,278	△7.8

(注) 1 金額は、生産高は製造原価、仕入実績は仕入価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しています。

2 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
建設・梱包向	4,176,777	+0.8	358,412	+11.8
電気・輸送機器向	1,010,368	△7.0	142,169	+31.9
合計	5,187,145	△0.8	500,582	+16.9

(注) 1 金額は、販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しています。

2 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
建設・梱包向	4,138,829	△0.1
電気・輸送機器向	975,979	△8.8
合計	5,114,808	△1.9

(注) 1 金額は、販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しています。

2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
大東スチール株式会社	1,085,361	20.8	1,182,135	23.1

3 上記金額には、消費税等は含まれていません。

3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、釘・ネジの専門メーカーとして、「1本の釘・ネジで、ものどもの、人と人をつなぎ、豊かな社会づくりに貢献します」を企業理念として定め、多様なニーズに応えられる高品質の製品を開発・提供して、社会に貢献することを使命として事業活動を続けています。また、法令や社会規範を遵守する透明でわかりやすい経営によって収益力をあげ、安定した利益を継続的に確保し企業価値を高めてまいります。

(2) 目標とする経営指標

当社グループが事業展開に際し重視している経営指標は、売上高、営業利益、自己資本比率であります。徹底した合理化、原価低減により生産性を高め、総資産を圧縮し、業績及び企業価値の向上を図ってまいります。

(経営指標) 売上高 60億円、営業利益 1.8億円、自己資本比率 25%超

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループの持つ技術力、開発力、設備能力、ブランド力、情報力等を活かし、下記の施策を実行しながら、コスト競争力の強化、財務体質の改善に努めてまいります。

建設・梱包向セグメント

釘は国内総需要の約7割が輸入商品で賄われている品種であり、当社の場合もここ数年海外委託生産品(OEM)の販売量が国内自社生産品を上回っているのが現状です。しかし、長年の経験に培われた当社の技術力・開発力・品質管理能力は、高付加価値品の製造においては圧倒的な優位性を保っていますし、またOEM商品の品質安定にも大きく寄与しています。汎用品から高付加価値品に至るまで、お客様の様々なニーズにお答えできる企業として勝ち残っていくため、コスト削減と売上高拡大を実現し、収益力のレベルアップを図ってまいります。

具体的施策は以下の通りです。

①コスト削減

1. 国内生産品種を再検討・選別の上増産する。
2. OEM提携先との関係強化により仕入コストを削減する。
3. 物流を合理化・再構築する。
4. 副資材の大幅な見直しを行う。
5. 省エネ対策と新電力の活用によりエネルギーコストを削減する。

②売上高の拡大

1. 営業スタッフを拡充する。
2. メリハリをつけた営業戦略により適正価格での売上増を追求する。
3. 技術力を活かした新製品を開発する。

電気・輸送機器向セグメント

かつての主力製品であった弱電・家電向けのネジは、平成22年以降の円高局面で需要家が生産拠点の海外シフトを加速させ、結果日本国内の需要は急激に減少しました。平成24年末以降の円高修正局面でも、これら需要の戻りは限定的のままとなっております。このため、自動車産業並びにOA機器メーカー向けを主なターゲットとして、高付加価値機能部品の製造を行う多段冷間圧造設備を平成26年に導入し、平成27年より本格的な量産体制に移行しつつあります。

高付加価値機能部品の製造・販売は、従来主力のネジ類拡販にも相乗効果が期待できるため、この投資効果の極大化に注力して営業活動を推進してまいります。

(4) 経営環境及び対処すべき課題

今後の当社グループ(当社及び連結子会社)を取り巻く経営環境を展望しますと、建設・梱包向事業は、少子化の進行と住宅の長寿命化による住宅需要の減少に伴う釘需要の減少、国内品及び中国を中心とする安価な釘の輸入増による価格競争の激化による市場価格・販売価格の硬直化及び為替変動による輸入商品の仕入価格の上昇等の懸念があります。また、電気・輸送機器向事業は、最終需要家の生産拠点の海外へのシフト等に伴う、国内ネジ需要の減少等の懸念があります。

当社グループとして、このような事業等のリスクに対応すべく、次の事項について積極的に挑戦し、業容の維持・拡大を図っていく所存であります。

①コスト競争力の強化

1. TPM初期清掃活動、計画的な予防保全、多能工化、生産性向上活動、コストダウン活動を推進し、儲かる工場を目指します。
2. 国内生産能力を最大限活用し、高品質で収益性の高い品種を優先的に増産します。
3. 省エネをはじめコストダウン案件を発掘し、推進します。
4. 自社製品と輸入商品とのバランスを柔軟に執ります。

②販売価格の是正

資源価格の変動や為替変動に即応した販売価格の是正を行います。

③新製品の開発推進

製販一体で、顧客ニーズを満足する新製品の開発に取り組みます。

④新規事業への展開

既存事業とのシナジー効果の見込める分野への参入により、事業の多角化と収益規模の拡大を図ります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財務状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあると考えています。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

建設・梱包向セグメント

①少子化による住宅需要の減少に伴う釘需要の減少

少子化の進行と住宅の長寿命化によって、国内の新設住宅着工戸数が減少し、それに伴い釘の需要も長期的に減少するリスクがあります。一方、高齢化や生涯未婚率の上昇等によって世帯数は当面減少せず、建替え需要にも下支えされて賃貸住宅需要はむしろ増加傾向にある、という説もあります。

②販売価格の硬直性

釘製品は、国内メーカーの製品のみならず、中国からの輸入品も含めた過当競争状態にあるため、販売価格の是正には時間を要します。したがって、材料費やエネルギーコストの高騰、為替変動による輸入商品の仕入コスト増等により一時的に採算が悪化するリスクがあります。

③為替変動

円安により、輸入商品の仕入価格上昇というリスクがあります。

電気・輸送機器向セグメント

今後の為替動向によっては、最終需要家の生産拠点の海外シフト等に伴って、国内ネジ需要の減少のリスクがあります。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) 技術受入契約

契約会社名	相手方の名称	契約品目	契約内容	契約期間
㈱ナテック	E J O T 社(独国)	DELTA PT SCREW VARIOBOSS	製造、販売、 技術情報の提供	平成13年3月1日か ら当該製品取扱い期 間内

(注) 対価として一定率のロイヤリティーを支払っています。

(2) 合併契約

当社は平成29年2月24日開催の取締役会決議に基づき株式会社接合耐力試験技術センターを平成29年4月1日に吸収合併いたしました。

詳細は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 注記事項(重要な後発事象)」をご参照ください。

6 【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析は、以下のとおりです。

(1) 経営成績の分析

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、売上高につきましては、5,114百万円(前連結会計年度比1.9%減)となりました。損益につきましては、営業利益は、特に、中国での鋼材価格の低下による資材価格の安定と増産に伴う生産性の向上による製造原価の低減効果等により、159百万円(前連結会計年度84百万円、89.0%増)となり、経常利益は147百万円(前連結会計年度69百万円、110.3%増)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損失として、固定資産除却損8百万円及び100%子会社の株式会社接合耐力試験技術センターの保有株式評価損6百万円を計上し、法人税、住民税及び事業税が23百万円であり、また、繰延税金資産を建設・梱包向は6百万円を計上し、電気・輸送機器向は5百万円取崩した結果、112百万円(前連結会計年度149百万円)となりました。

(売上高及び営業利益)

建設・梱包向事業は、平成28年度の新設住宅着工戸数が97.4万戸(前年度比5.8%増)と特に、住宅建設利用関係区分での貸家・一戸建ての伸びが大きく、需要環境は良好に推移いたしました。しかし、当社は価格競争力のある輸入品において、販売が伸びなかったため、売上高は前年度とほぼ横ばいの4,138百万円(前年度比0.1%減)となりました。営業利益、経常利益は、資材価格の低位安定と国内品の増産に伴う生産性の向上による製造原価の低減効果等により、大幅な増益となりました。一方、電気・輸送機器向事業は、弱電・OA機器向け及びゲーム機器の海外での現地調達化が定着し、国内での需要は低迷しました。また、価格競争が激しく、資材や電力料・外注加工費等の製造コストの増加分を価格に転嫁できなかったため、売上高は前年度に比べ8.8%減の975百万円となり、営業利益は前年度に比べ2百万円の減益となりました。

(営業外損益)

営業外収益は、前連結会計年度に比べ3百万円減少しました。これは、受取配当金と保険解約戻戻金が減少したこと等によるものであります。営業外費用は、前連結会計年度に比べ5百万円減少しました。これは、支払利息が金利低減の取り組みにより、前連結会計年度に比べ4百万円減少したこと等によるものであります。この結果、営業外損益は、費用が収益を12百万円上回りました。

(特別損益)

特別損失は、固定資産除却損が8百万円であり、その内訳は建設・梱包向5百万円、電気・輸送機器向3百万円であります。また、子会社株式評価損6百万円は、100%子会社の株式会社接合耐力試験技術センターの保有株式評価損によるものであります。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

親会社株主に帰属する当期純利益は、法人税、住民税及び事業税23百万円を計上し、建設・梱包向で繰延税金資産を6百万円計上し、電気・輸送機器向で5百万円を取崩した結果、112百万円となりました。前連結会計年度に比べ37百万円の減益となりましたが、前連結会計年度は兵庫県福崎町の土地・建物の売却益101百万円があったことによるものであります。この結果、1株当たり当期純利益は、前連結会計年度に比べ2.81円減の9.40円となり、自己資本当期純利益率は、前連結会計年度に比べ4.6%減の10.2%となりました。

(2) 財政状態の分析

当社グループは、適切な流動性の維持、設備投資を含む事業活動のための資金の確保、総資産及び有利子負債の圧縮を前提とした健全なバランスシートの維持、そして自己資本比率を高めていくことを財務方針としています。

当連結会計年度末の総資産は5,161百万円(前連結会計年度末〔以下「前年度末という」〕比149百万円増)となりました。負債は4,005百万円(前年度末比97百万円増)となり、純資産は1,156百万円(前年度末比51百万円増)となりました。

(流動資産)

流動資産は、建設・梱包向、電気・輸送機器向とも第4四半期における売上高が前連結会計年度に比べ増加したため、受取手形及び売掛金が111百万円増加し、また、現金及び預金が111百万円増加したこと等により、前年度末に比べ191百万円増の3,076百万円となりました。

(固定資産)

固定資産は、前年度末に比べ42百万円減少し、2,084百万円となりました。これは有形・無形固定資産の設備投資額が121百万円に対して、減価償却費が162百万円であり、また、投資有価証券は、保有する100%子会社の株式会社接合耐力試験技術センターの株式を6百万円評価減したことによるものであります。

(流動負債・固定負債)

流動負債は、支払手形及び買掛金が14百万円、未払消費税等が12百万円増加したことにより、前年度末に比べ25百万円増加し、2,694百万円となりました。固定負債は、長期借入金が55百万円増加したこと等により、前年度末に比べ72百万円増加し、1,310百万円となりました。

(純資産)

株主資本のうち利益剰余金は、親会社株主に帰属する当期純利益が112百万円であるのに対して、配当金の支払いが12百万円であり、自己株式の取得を46百万円行ったこと等により、前年度末に比べて51百万円増加し、1,156百万円となりました。この結果、自己資本比率は前年度末の21.4%から21.8%となり、1株当たり純資産は87.32円から95.56円となりました。

(3) キャッシュ・フローの分析

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が131百万円であり、売上債権が111百万円増加し、減価償却費が162百万円であったこと等により268百万円の増加(前連結会計年度は120百万円の増加)となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が109百万円、無形固定資産の取得による支出が22百万円等により147百万円の減少(前連結会計年度は41百万円の増加)となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入による収入が、長期借入金の返済による支出を48百万円上回り、自己株式の取得による支出が46百万円あったこと等により、10百万円の減少(前連結会計年度は158百万円の減少)となりました。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、生産性の向上のための省力化、合理化を中心に、生産・販売能力の増強を目的とした設備投資を重点的に行っております。建設・梱包向においては、政策的に一部の輸入商品を自社生産にシフトしたため、自社製品の生産能力の増強工事を行い、また、省エネのための工場内照明のLED化を更に進めました。この結果、当連結会計年度の設備投資(有形固定資産受入ベース数値。金額には消費税等は含まれません。)は、98百万円(前連結会計年度は234百万円)となりました。

その内訳は、建設・梱包向における総額は72百万円であり、主なものは、製釘機5台オーバーホール9百万円、LED照明設置工事7百万円及びインラインC/Cメチクロ回収装置3台10百万円等であり、電気・輸送機器向における総額は26百万円であり、主なものは熱処理炉加熱炉補修工事12百万円等であります。

2 【主要な設備の状況】

当社及び連結子会社における主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社・本社工場 (兵庫県尼崎市)	建設・梱包 向	生産設備 倉庫管理 品質管理	313,842	324,724	526,970 (17,963)	20,925	1,186,463	83
	全社共通	本社機能						10

(注) 1 上記金額には、消費税等は含まれていません。

2 帳簿価額のうち、「その他」は、工具、器具及び備品であります。

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
株式会社 ナテック	岩手工場 (岩手県 奥州市)	電気・輸 送機器向	ネジ製造 設備	171,070	256,224	205,447 (11,871)	24,451	657,193	57

(注) 1 上記金額には、消費税等は含まれていません。

2 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末 現在発行数(株) (平成29年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,317,000	12,317,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数100株
計	12,317,000	12,317,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成17年4月1日～ 平成18年3月31日 (注)	317	12,317	15,216	615,216	15,216	40,181

(注) 新株予約権行使に伴う新株式の発行による増加であります。

(6) 【所有者別状況】

平成29年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	4	21	15	16	3	1,503	1,562	—
所有株式数(単元)	—	3,272	8,673	61,451	2,736	102	46,919	123,153	1,700
所有株式数の割合(%)	—	2.66	7.04	49.90	2.22	0.08	38.10	100.00	—

- (注) 1 自己株式548,953株は「個人その他」に5,489単元、「単元未満株式の状況」に53株含まれています。
 2 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が10単元含まれています。

(7) 【大株主の状況】

平成29年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	東京都中央区日本橋1丁目4番1号	3,132	25.42
株式会社神戸製鋼所	神戸市中央区脇浜海岸通2丁目2番4号	2,588	21.01
アマテイ株式会社	兵庫県尼崎市西高洲町9番地	548	4.45
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	481	3.90
山田 実	兵庫県加古郡播磨町	289	2.34
樽谷包装産業株式会社	兵庫県尼崎市道意町7丁目1番3号	200	1.62
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	184	1.49
田村 靖典	神奈川県藤沢市	164	1.33
松井証券株式会社	東京都千代田区麴町1丁目4番地	136	1.10
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	東京都新宿区西新宿1丁目26番1号	135	1.09
計	—	7,859	63.81

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 548,900	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,766,400	117,664	—
単元未満株式	普通株式 1,700	—	—
発行済株式総数	12,317,000	—	—
総株主の議決権	—	117,664	—

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれています。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれています。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式53株が含まれています。

② 【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) アマテイ株式会社	兵庫県尼崎市西高洲町9番地	548,900	—	548,900	4.45
計	—	548,900	—	548,900	4.45

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成28年8月2日)での決議状況 (取得期間平成28年8月3日～平成29年9月30日)	550,000	55,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	500,000	46,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	50,000	9,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	9.1	16.4
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	9.1	16.4

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	25	2
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成29年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めていません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(一)	—	—	—	—
保有自己株式数	548,953	—	548,953	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成29年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めていません。

3 【配当政策】

当社では株主に対する配当金額の決定は、最重要施策のひとつとして認識しており、基本的には収益の状況と今後の事業活動の展開に必要な内部留保金等を勘案した上で可能な限り配当を行うべきと考えています。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本とし、配当の決定機関は株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、当事業年度の業績並びに今後の事業展開のための内部留保等を総合的に勘案し、1株当たり2.5円としております。

当社といたしましては、将来にわたる株主の利益を確保していくためには、引き続き経営基盤の強化に努め、事業の拡大を図ってまいります。内部留保につきましては、製品開発、競争力の維持向上、収益性の向上を図るため、有効投資に備える所存であります。

次期の配当金につきましては、利益配分に関する基本方針並びに次期の業績を踏まえ、判断をしております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年6月28日 定時株主総会	29,420	2.5

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
最高(円)	98	123	164	151	169
最低(円)	45	56	65	83	79

(注) 最高・最低株価は、平成25年7月16日より東京証券取引所市場第二部におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成 28年10月	28年11月	28年12月	平成 29年1月	29年2月	29年3月
最高(円)	97	105	107	102	169	141
最低(円)	89	87	96	96	98	115

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

男性10名 女性0名 (役員のうち女性の比率—%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数
取締役社長	代表取締役	藪内 茂行	昭和31年8月4日	昭和55年4月 平成13年10月 平成16年8月 平成21年4月 平成24年4月 平成24年6月 平成27年4月 平成29年4月 平成29年6月 平成29年6月	丸紅(株)に入社 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)に転籍、鋼材第一本部自動車鋼材部自動車鋼材第一課長 広州紅忠汽車鋼材部件有限公司 董事兼総経理 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)鋼材第二部長 同社執行役員鋼材第三本部長 当社取締役 紅忠スチール(株)代表取締役社長 同社顧問 当社顧問 当社代表取締役社長(現任)	(注)3	—
常務取締役	生産本部長	後藤 哲也	昭和29年9月6日	昭和55年4月 平成4年1月 平成11年5月 平成13年4月 平成17年6月 平成22年4月 平成23年4月 平成23年6月 平成27年6月	(株)神戸製鋼所に入社 同社鉄鋼事業本部加古川製鉄所製銑部製銑室長 USS/KOBE STEEL(米国)に出向 KOBELCO METAL POWDER OF AMERICA, INC.に出向、同社副社長 (株)神戸製鋼所鉄粉本部鉄粉工場長 同社鉄粉本部技師長 当社生産本部顧問 当社取締役生産本部長 当社常務取締役生産本部長(現任)	(注)3	9,051株
常務取締役	営業本部長	和田 喜夫	昭和30年9月30日	昭和55年4月 平成13年10月 平成18年4月 平成18年6月 平成21年4月 平成26年4月 平成26年6月 平成28年6月	丸紅(株)に入社 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)に転籍 (株)チタックに出向、同社取締役 日鉄東海鋼線(株)に出向、同社執行役員 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)大阪特殊鋼ステンレス部長 当社に出向、顧問 当社取締役営業本部長 当社常務取締役営業本部長(現任)	(注)3	6,325株
取締役	経営管理本部長	石野 栄一	昭和31年11月25日	昭和54年4月 平成4年4月 平成16年1月 平成22年4月 平成25年7月 平成26年6月	神東塗料(株)に入社 (株)新井組に入社 当社に入社 当社経営管理本部総務経理部長 当社経営管理本部長兼総務経理部長 当社取締役経営管理本部長(現任)	(注)3	8,027株
取締役	—	鈴木 明	昭和34年9月19日	昭和58年4月 平成13年10月 平成15年4月 平成23年4月 平成25年4月 平成29年4月 平成29年6月	伊藤忠商事(株)に入社 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)に転籍 伊藤忠丸紅鉄鋼大洋州会社 社長 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)自動車鋼材第一部長 P.T. United Steel Center Indonesia 出向、社長 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)執行役員自動車鋼材本部長(現任) 当社取締役(現任)	(注)3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数
取締役	—	西村 悟	昭和37年3月21日	昭和61年4月 平成22年4月 平成22年5月 平成26年4月 平成28年4月 平成28年6月 平成29年4月	(株)神戸製鋼所に入社 同社鉄鋼事業部門鉄鋼総括部付 (KOBEL WIRE (THAILAND) CO., LTD. 取締役社長) 同社鉄鋼事業部門鉄鋼総括部担当部長 同社鉄鋼事業部門厚板営業部長 同社執行役員鉄鋼事業部門線材条鋼営業担当、同線材条鋼分野海外拠点担当 当社取締役(現任) (株)神戸製鋼所執行役員鉄鋼事業部門線材条鋼営業部、厚板営業部の担当、同線材条鋼分野海外拠点の担当(現任)	(注)3	—
監査役	常勤	中本 俊忠	昭和26年8月5日	昭和50年4月 昭和63年4月 平成10年4月 平成16年4月 平成17年4月 平成20年6月 平成26年6月	リョービ(株)に入社 リョービ販売(株)に出向、同社大阪営業所長 同社本社ファスニンググループ長 当社入社 当社営業本部営業部長 当社取締役営業本部長 当社監査役(現任)	(注)4	13,095株
監査役	—	山本 英樹	昭和33年9月6日	昭和57年4月 平成13年5月 平成20年10月 平成24年4月 平成26年4月 平成28年4月 平成28年6月	伊藤忠商事(株)に入社 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)に転籍 同社バンコク支店長 同社鋼管本部鋼管部長 同社執行役員経営企画・人事総務本部長代行兼経営企画部長 同社執行役員大阪支社長(現任) 当社監査役(現任)	(注)4	—
監査役	—	石谷 誠	昭和35年10月20日	昭和59年4月 平成13年10月 平成18年4月 平成24年4月 平成28年4月 平成28年6月	丸紅(株)に入社 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)に転籍 同社米国会社最高財務責任者 JSW MI Steel Service Center Private Ltdに出向 President 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)事業総括部長(現任) 当社監査役(現任)	(注)4	—
監査役	—	塩野 隆史	昭和36年11月19日	昭和63年4月 平成7年4月 平成10年1月 平成15年4月 平成17年4月 平成23年4月 平成23年6月 平成25年3月 平成26年9月 平成27年4月	大阪弁護士会登録 塩野隆史法律事務所開設 同所長(現任) 近畿税理士会登録 吹田市固定資産評価審査委員会委員 大阪大学大学院高等司法研究科客員教授(現任) 吹田市公平委員会委員(現任) 当社監査役(現任) 京都大学博士(法学) 大阪狭山市開発事業等紛争調停委員会委員(現任) 大阪府都市競艇組合公平委員会委員(現任)	(注)5	—
計							36,498株

- (注) 1 取締役 鈴木 明及び西村 悟は、社外取締役であります。
- 2 監査役 山本英樹、石谷 誠及び塩野隆史は、社外監査役であります。また、塩野隆史は、東京証券取引所の定める独立役員であります。
- 3 取締役の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役 中本俊忠、山本英樹及び石谷 誠の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役 塩野隆史の任期は、平成27年3月期に係る定時株主総会の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

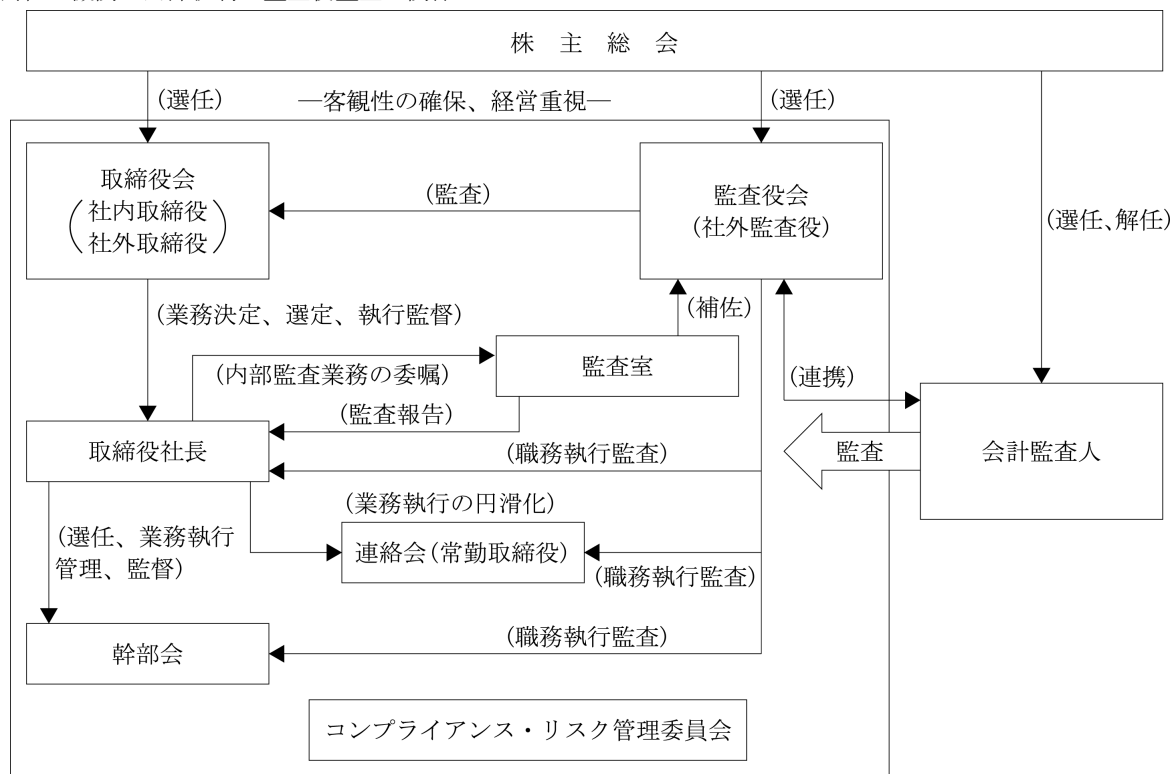
① 企業統治の体制

イ. 企業統治の体制の概要

当社は、取締役会・監査役会を基本機構とし、取締役会は迅速かつ的確な経営判断を行い、経営課題や重要事項を決定するため原則として年6回開催しています。取締役会には監査役が常時出席し、取締役の業務執行状況を監督しています。

また、取締役社長は、常勤取締役をメンバーとする連絡会を毎週1回開催しています。その他、取締役社長は、常勤取締役及び課長以上の管理職をメンバーとする幹部会を開催し、業務執行の円滑化及びリスク管理強化を行っています。連絡会及び幹部会には常勤監査役も出席しています。

ロ. 会社の機関と内部統制・監査役監査の関係



ハ. 当該体制を採用する理由

当社は、監査役制度を採用しており、監査役4名のうち3名が社外監査役であり、取締役会に対する監査機能の客観性・中立性を確保し、取締役会から独立した監査室と監査役会との連携を確保することにより監査機能の強化を図っています。また、監査役会は会計監査人と連携を十分に図っています。

これらにより、経営の意思決定及び業務執行の適正化・効率化に努めています。

ニ. その他の企業統治に関する事項

a) 内部統制システムの整備・運用の状況

当社は、業務の適正性を確保するための体制の整備を行うための基本方針を定めて、内部統制システムを構築し運用しています。取締役社長を最高責任者とする組織体制を整備し、子会社を含めたシステムの構築に取り組んでまいりました。より信頼性の高い財務諸表を実現するため、「財務報告に係る内部統制の基本方針」を策定し、監査室による内部統制監査を実施し、システムの運用による管理体制の充実を図ってまいりました。

監視体制といたしましては、監査室が内部監査規定に基づき、諸規定、ルールの遵守及び適正な運用と管理状況を監査し、健全性を確保しています。また適宜、監査役及び監査法人とも意見交換を行い、内部統制システムの整備・運用に関するアドバイスも受けています。

b) リスク管理体制の整備状況

当社は、取締役及び従業員の職務の執行が法令及び定款に適合し、かつ社会的責任を果たすため「企業行動基準」を定め、全取締役及び従業員に周知徹底させています。また、組織横断的なリスク状況の掌握・監視並

びにその対応は経営管理部門が行い、各部門所管業務に付随するリスクの管理はその担当部門が行うこととなっています。この体制を機能させるため、取締役社長を委員長とするコンプライアンス・リスク管理委員会を年2回開催し、各部門の担当取締役はリスクの洗い出しを行い、予防的な対策を具体化する等の総合的管理体制を取っています。

c) 当社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は、子会社のコンプライアンス体制やその他の業務の適正を確保するための内部統制システムを整備し、財務報告の信頼性の確保するために、指導及び支援を行っています。子会社の事業運営については、子会社の独立性を確保しつつ、当社の取締役(平成29年3月31日現在、子会社の役員を3名が兼務)は、子会社の開催する取締役会に出席し、決算の把握、重要事項の審議等を行い、子会社の業務執行を監督しています。

d) 監査役による使用人からの情報収集等に関する体制の充実

当社は、取締役及び従業員、並びに子会社の取締役、監査役及び従業員又はこれらの者から報告を受けた者は、監査役に対して、法令・定款に違反する事実、当社及び子会社等の会社に著しい損害を与える恐れのある事実を発見した場合には、当該事実に関する事項を遅滞なく監査役に報告を行う。また、当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを行うことを禁止し、その旨を当社及び子会社の取締役及び従業員に周知徹底することとします。

② 内部監査及び監査役監査

監査室と監査役は、互いに緊密に連絡・情報交換を行い、また監査室による会計監査・業務監査に適宜立ち会う等の連携の取れた監視体制を確立しています。

イ. 監査室

当社は、取締役社長直轄の監査室(室長1名、室員2名)を設置し、監査役並びに会計監査人との連携を取りながら、当社において内部統制が有効に機能しているかを監視しています。定期又は臨時の監査を実施し、各種法令の遵守、リスク回避体制の確認、指導を重点項目として監査を行っています。

ロ. 監査役会

当社は監査役会を設置しています。公平な監査が行われるように、当社の監査役会は、常勤監査役1名と社外監査役3名で構成され、取締役会の影響を受けない独立した経営監査を実施しています。常勤監査役は常時社内の業務執行の状況を監査しています。監査役は、取締役会及び重要な会議に出席する他、業務、財産の状況の調査等を通じ、取締役の職務遂行について監査を行っています。また会計監査人と相互に連携を取り、監査計画及び監査状況等の報告を受ける等、適宜に必要な情報交換、意見交換を行っています。

③ 会計監査の状況

会計監査人は、ネクサス監査法人与監査契約を締結し、監査を受けています。当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、高谷和光、森田知之の2氏であり、補助者は公認会計士6名であります。

④ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は2名、社外監査役は3名であります。本有価証券報告書提出日現在、当該社外役員5名は当社の株式を保有しておりません。

社外取締役の鈴木 明は、その他の関係会社である伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社の執行役員であり、企業における豊富な実務経験及び鉄鋼分野における幅広い見識を有しており、社外取締役として選任しております。なお、伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社は当社の株式の25.4%を所有しており、また取引関係もありますが(関係内容は、第一部 第14「関係会社の状況」、又は第一部 第5「経理の状況」1「連結財務諸表等」「関連当事者情報」を参照下さい。)、社外取締役の鈴木 明との間には特別な利害関係はありません。

社外取締役の西村 悟は、その他の関係会社である株式会社神戸製鋼所の執行役員であり、企業における豊富な実務経験及び鉄鋼メーカーで培われた幅広い見識を有しており、社外取締役として選任しております。なお、株式会社神戸製鋼所は当社の株式の21.0%を所有しておりますが(関係内容については、第一部 第14「関係会社の状況」を参照下さい。)、同社の線材製品を伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社を通して購入していることから、直接の取引関係はありません。また、社外取締役の西村 悟との間には特別な利害関係はありません。

社外監査役の山本英樹は、その他の関係会社である伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社の執行役員であり、企業における豊富な経験と、特に鉄鋼分野での幅広い見識を生かし、経営全般の監視と有効な助言・提言を行っていただく目的で招聘いたしました。

社外監査役の石谷 誠は、その他の関係会社である伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社の使用人であり、当社との関係の深い鉄鋼業界に関する知識を有し、他社での経営管理部門での経験を生かし、経営全般の監視と有効な助言・提言を行っていただく目的で招聘いたしました。

社外監査役の塩野隆史は、弁護士として企業法務及び税務に精通しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有し、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための必要な発言を行っております。また、独立性の基準を満たしており、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。同氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、法令の規定する額を限度として、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しております。

当社には社外取締役及び社外監査役を選任するに当たって、文書化された基準等はありませんが、選任に当たっては東京証券取引所の独立役員の独立性に関する基準等を参考にしております。

常勤監査役は、取締役の日常の業務執行を監査しております。

なお、当社は社外取締役から、取締役会を中心に当社の取締役の業務執行に関して監督を受けるとともに、経営に関する有益な助言を受けております。同じく、当社は社外監査役から、取締役会を中心に当社の取締役の業務執行に関して監督を受けております。

監査役監査及び会計監査人との相互連携については、常勤監査役が中心となり、担当分野の調整及び情報の共有を図ることとしております。また、内部監査及び内部統制に関する分野についても、同様に、常勤監査役が中心となり、担当分野の調整及び情報の共有を図ることとしております。

⑤ 役員の報酬等

イ. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる役員 の員数(名)
		基本報酬	賞与	役員退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	56,722	36,510	10,350	9,862	4
監査役 (社外監査役を除く。)	9,250	7,200	1,150	900	1
社外役員	1,430	1,200	230	—	1

ロ. 使用人兼務役員の使用人分給与(賞与含む)のうち重要なもの
金額に重要性がないため、記載していません。

ハ. 役員報酬等の金額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員の報酬額は、平成19年6月28日の定時株主総会において役員賞与・役員退職慰労引当金繰入額も含めて取締役については年総額120,000千円以内、監査役については年総額30,000千円以内と決議されています。

その算定方法の決定に関する方針は、「役員報酬表」において、取締役と監査役に区分して、株主総会において定められた限度内の金額で各役員に配分すると定めています。

ニ. 社外役員のうち常勤監査役を除く、取締役2名と監査役2名については報酬は支給していません。

⑥ 株式の保有状況

イ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 2 銘柄

貸借対照表計上額の合計額 46,111 千円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
大東建託(株)	3,000	47,940	営業上の取引関係の維持強化

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
大東建託(株)	3,000	45,885	営業上の取引関係の維持強化

ハ. 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

⑦ 当社定款における定め概要

イ. 取締役の定数

当社の取締役につきましては、9名以内とする旨を定款に定めています。

ロ. 取締役選解任の決議要件

取締役の選任の決議案件につきましては、議決権を行使することのできる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、その選任決議は累積投票によらない旨、及び取締役の解任の決議要件につきましては、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めています。

ハ. 株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとしている事項

・自己株式の取得

当社は、経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行のため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって、自己の株式を取得することができる旨を定款で定めています。

・取締役及び監査役の実任免除

当社は、取締役及び監査役の実任免除について、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、職務を怠ったことによる取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役の決議によって免除することができる旨を定款で定めています。

ニ. 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議案件について、議決権を行使することのできる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めています。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	16,950	—	16,500	—
連結子会社	—	—	—	—
計	16,950	—	16,500	—

(注) 当社と監査公認会計士等との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分していませんので、監査証明業務に基づく報酬には金融商品取引法に基づく監査の報酬等の額を含めています。

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定は、当社の事業規模の観点から合理的監査日数を勘案し、監査役会の同意を得た上で、取締役会での決議事項としています。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しています。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しています。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)及び事業年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、ネクサス監査法人により監査を受けています。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへ参加しています。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	460,965	572,231
受取手形及び売掛金	※2, ※5 1,276,579	※2, ※5 1,387,961
商品及び製品	755,526	697,798
仕掛品	194,371	215,706
原材料及び貯蔵品	166,808	169,318
前払費用	13,943	11,887
繰延税金資産	13,818	21,344
その他	5,905	4,023
貸倒引当金	△3,125	△3,776
流動資産合計	2,884,793	3,076,496
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	517,630	488,006
機械装置及び運搬具（純額）	596,283	581,014
土地	733,542	733,542
その他（純額）	61,419	45,377
有形固定資産合計	※1, ※2 1,908,876	※1, ※2 1,847,940
無形固定資産		
ソフトウェア	22,827	36,650
その他	3,383	0
無形固定資産合計	26,211	36,650
投資その他の資産		
投資有価証券	※3 119,218	※3 111,580
長期前払費用	120	4,741
その他	95,789	96,011
貸倒引当金	△22,903	△12,091
投資その他の資産合計	192,225	200,242
固定資産合計	2,127,312	2,084,833
資産合計	5,012,105	5,161,329

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※5 813,331	※5 827,848
短期借入金	※2 1,582,442	※2 1,575,017
未払法人税等	17,479	22,480
未払消費税等	28,428	40,620
未払費用	49,657	49,601
賞与引当金	49,113	46,795
役員賞与引当金	—	11,730
その他	129,040	120,538
流動負債合計	2,669,491	2,694,632
固定負債		
長期借入金	※2 1,019,671	※2 1,075,203
繰延税金負債	8,019	12,946
役員退職慰労引当金	23,528	35,951
退職給付に係る負債	183,632	183,087
資産除去債務	3,461	3,479
固定負債合計	1,238,312	1,310,668
負債合計	3,907,803	4,005,301
純資産の部		
株主資本		
資本金	615,216	615,216
資本剰余金	40,181	40,181
利益剰余金	404,551	504,515
自己株式	△3,058	△49,060
株主資本合計	1,056,891	1,110,852
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,350	13,698
その他の包括利益累計額合計	14,350	13,698
非支配株主持分	33,060	31,476
純資産合計	1,104,301	1,156,028
負債純資産合計	5,012,105	5,161,329

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)
売上高	5,213,130	5,114,808
売上原価	※1 4,295,534	※1 4,109,287
売上総利益	917,596	1,005,520
販売費及び一般管理費	※2 833,159	※2 845,941
営業利益	84,436	159,579
営業外収益		
受取利息	57	32
受取配当金	3,229	1,413
受取賃貸料	1,495	600
助成金収入	2,970	3,038
補助金収入	—	1,858
保険解約返戻金	4,424	2,556
その他	9,161	8,478
営業外収益合計	21,339	17,976
営業外費用		
支払利息	27,959	23,337
手形売却損	211	213
売上割引	7,098	6,233
その他	599	748
営業外費用合計	35,868	30,533
経常利益	69,908	147,021
特別利益		
固定資産売却益	※3 101,381	※3 48
特別利益合計	101,381	48
特別損失		
固定資産除却損	※4 9,006	※4 8,685
子会社株式評価損	—	6,922
その他	—	50
特別損失合計	9,006	15,658
税金等調整前当期純利益	162,282	131,412
法人税、住民税及び事業税	17,308	23,295
法人税等調整額	△3,278	△2,531
法人税等合計	14,029	20,763
当期純利益	148,253	110,648
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△1,495	△1,583
親会社株主に帰属する当期純利益	149,749	112,232

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
当期純利益	148,253	110,648
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△37,411	△651
その他の包括利益合計	※1 △37,411	※1 △651
包括利益	110,842	109,997
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	112,338	111,580
非支配株主に係る包括利益	△1,495	△1,583

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	615,216	40,181	254,802	△3,022	907,178
当期変動額					
剰余金の配当			—		—
親会社株主に帰属する当期純利益			149,749		149,749
自己株式の取得				△36	△36
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	149,749	△36	149,713
当期末残高	615,216	40,181	404,551	△3,058	1,056,891

	その他の包括利益累計額		非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	51,762	51,762	34,555	993,496
当期変動額				
剰余金の配当				—
親会社株主に帰属する当期純利益				149,749
自己株式の取得				△36
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△37,411	△37,411	△1,495	△38,907
当期変動額合計	△37,411	△37,411	△1,495	110,805
当期末残高	14,350	14,350	33,060	1,104,301

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	615,216	40,181	404,551	△3,058	1,056,891
当期変動額					
剰余金の配当			△12,268		△12,268
親会社株主に帰属する当期純利益			112,232		112,232
自己株式の取得				△46,002	△46,002
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	99,964	△46,002	53,961
当期末残高	615,216	40,181	504,515	△49,060	1,110,852

	その他の包括利益累計額		非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	14,350	14,350	33,060	1,104,301
当期変動額				
剰余金の配当				△12,268
親会社株主に帰属する当期純利益				112,232
自己株式の取得				△46,002
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△651	△651	△1,583	△2,234
当期変動額合計	△651	△651	△1,583	51,726
当期末残高	13,698	13,698	31,476	1,156,028

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	162,282	131,412
減価償却費	162,246	162,026
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△566	△10,161
賞与引当金の増減額 (△は減少)	19,838	△2,318
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	2,941	△545
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	11,730
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	5,133	12,423
受取利息及び受取配当金	△3,287	△1,445
支払利息	27,959	23,337
子会社株式評価損	—	6,922
固定資産売却損益 (△は益)	△101,381	△48
固定資産除却損	9,006	8,685
売上債権の増減額 (△は増加)	19,092	△111,381
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△101,468	33,883
仕入債務の増減額 (△は減少)	△57,691	14,517
その他	8,285	33,922
小計	152,392	312,961
利息及び配当金の受取額	3,287	1,445
利息の支払額	△27,714	△22,923
法人税等の支払額	△7,879	△22,691
営業活動によるキャッシュ・フロー	120,086	268,792
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△142,864	△109,067
有形固定資産の売却による収入	228,655	1,550
無形固定資産の取得による支出	△6,610	△22,789
投資有価証券の売却による収入	—	0
貸付けによる支出	△860	△500
貸付金の回収による収入	974	861
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△37,444	△17,417
投資活動によるキャッシュ・フロー	41,850	△147,362
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	293,600	360,000
短期借入金の返済による支出	△359,000	△360,000
長期借入れによる収入	540,000	580,000
長期借入金の返済による支出	△633,126	△531,893
自己株式の取得による支出	△36	△46,002
配当金の支払額	—	△12,268
財務活動によるキャッシュ・フロー	△158,562	△10,163
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,374	111,266
現金及び現金同等物の期首残高	457,591	460,965
現金及び現金同等物の期末残高	※1 460,965	※1 572,231

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

子会社2社のうち、株式会社ナテックは連結の範囲に含まれ、株式会社接合耐力試験技術センターは連結の範囲に含まれていません。

当該非連結子会社は、小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていません。

2 持分法の適用に関する事項

非連結子会社である株式会社接合耐力試験技術センターは連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微で重要性がないため、持分法を適用していません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち株式会社ナテックの決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っています。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

②たな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっています。

商品

当社 総平均法

連結子会社 移動平均法

製品

当社 先入先出法

連結子会社 総平均法

原材料・仕掛品・貯蔵品

総平均法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産

定額法によっています。

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～50年

機械装置及び運搬具 2年～10年

②無形固定資産

定額法によっています。なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっています。

(3)重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

②賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額を計上しています。

③役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額を計上しています。

④役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しています。

(4)退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

(5)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資であります。

(6)その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
	4,562,800千円	4,601,363千円

※2 担保提供資産

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)		当連結会計年度 (平成29年3月31日)	
受取手形	308,549千円		223,063千円	
建物及び構築物	492,849千円	(181,244千円)	478,503千円	(179,180千円)
機械装置及び運搬具	438,161千円	(314,450千円)	575,896千円	(324,724千円)
土地	732,417千円	(15,193千円)	732,417千円	(15,193千円)
その他(工具、器具及び備品)	13,953千円	(13,953千円)	15,311千円	(15,311千円)
計	1,985,932千円	(524,842千円)	2,025,190千円	(534,409千円)

対応債務

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)		当連結会計年度 (平成29年3月31日)	
短期借入金	1,141,704千円	(1,071,684千円)	1,181,300千円	(1,078,760千円)
長期借入金	525,694千円	(326,054千円)	752,162千円	(328,712千円)
計	1,667,398千円	(1,397,738千円)	1,933,462千円	(1,407,472千円)

上記のうち()内書は工場財団根抵当並びに当該債務を示しています。

※3 非連結子会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
投資有価証券(株式)	20,000千円	13,077千円

4 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
受取手形割引高	38,740千円	一千円

※5 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しています。なお、連結子会社の期末日が金融機関の休日であり、期末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
受取手形	一千円	14,297千円
支払手形	39,566千円	23,546千円
割引手形	18,604千円	一千円

(連結損益計算書関係)

※1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下げ額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
売上原価	2,743千円	△1,519千円

※2 販売費及び一般管理費の内、主要なものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
運搬費	241,865千円	233,745千円
従業員給料	186,243千円	180,183千円
減価償却費	28,856千円	28,094千円
貸倒引当金繰入額	△334千円	1,189千円
賞与引当金繰入額	23,797千円	20,408千円
役員賞与引当金繰入額	—千円	11,730千円
退職給付費用	23,058千円	18,798千円
役員退職慰労引当金繰入額	8,583千円	12,423千円

※3 固定資産売却益の内訳

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
機械装置及び運搬具	—千円	48千円
福崎工場(兵庫県福崎町)	101,381千円	—千円
計	101,381千円	48千円

※4 固定資産除却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物及び構築物	—千円	493千円
機械装置及び運搬具	8,695千円	8,105千円
その他	311千円	86千円
計	9,006千円	8,685千円

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	△55,763千円	△714千円
組替調整額	—千円	—千円
税効果調整前	△55,763千円	△714千円
税効果額	18,351千円	62千円
その他有価証券評価差額金	△37,411千円	△651千円
その他の包括利益合計	△37,411千円	△651千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

I. 前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,317,000	—	—	12,317,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	48,582	346	—	48,928

(注) 普通株式の自己株式数の増加346株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	繰越利益 剰余金	12,268	1	平成28年3月31日	平成28年6月29日

II. 当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,317,000	—	—	12,317,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	48,928	500,025	—	548,953

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加500,025株は、平成28年8月2日開催の取締役会決議による自己株式の取得による増加500,000株及び単元未満株式の買取りによる増加25株であります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	12,268	1	平成28年3月31日	平成28年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	繰越利益 剰余金	29,420	2.5	平成29年3月31日	平成29年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
現金及び預金勘定	460,965千円	572,231千円
現金及び現金同等物	460,965千円	572,231千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に釘・ネジの製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入)を調達しています。また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しています。デリバティブは、金利の変動リスクを回避する場合に利用することがあります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されていますが、当該リスクについては、社内管理体制に従い、主な取引先の信用調査、取引先別の期日管理及び残高管理を行うことによりリスクの軽減を図っています。投資有価証券は、主に営業上の取引関係の維持強化のため保有する株式であり、市場価額の変動リスクに晒されています。

営業債務である支払手形及び買掛金は、全て1年以内の支払期日であります。買掛金の一部には、輸入商品及び輸入原材料がありますが、円建て契約のため、為替リスクはありません。借入金は、長期の運転資金と設備投資に必要な資金を調達したのですが、返済期間は最長で9年であります。デリバティブ取引(金利スワップ取引)は行っていません。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、売掛金管理規程及び与信管理規程に従って、取引先別に営業債権の管理を行っています。具体的には定例の営業会議の中でモニタリングを実施し、貸倒懸念債権の早期把握に努め、軽減策の検討を行っています。また、信用リスクの軽減のため、損害保険を利用しています。連結子会社においても、当社の規程に準じて同様の管理を行っています。

② 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、資金担当部門において、年間の資金繰計画を作成し、現状に即して更新するとともに、資金繰計画に合った資金調達ができるよう早めの対策を講じています。

また、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていません((注2)を参照ください。)

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	460,965	460,965	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,276,579	1,276,579	—
(3) 投資有価証券	98,991	98,991	—
資産計	1,836,536	1,836,536	—
(1) 支払手形及び買掛金	813,331	813,331	—
(2) 短期借入金	1,582,442	1,582,442	—
(3) 長期借入金	1,019,671	1,013,419	△6,251
負債計	3,415,444	3,409,192	△6,251

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	572,231	572,231	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,387,961	1,387,961	—
(3) 投資有価証券	98,277	98,277	—
資産計	2,058,470	2,058,470	—
(1) 支払手形及び買掛金	827,848	827,848	—
(2) 短期借入金	1,575,017	1,575,017	—
(3) 長期借入金	1,075,203	1,059,309	△15,893
負債計	3,478,068	3,462,175	△15,893

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっています。

また、保有目的ごとの投資有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらはすべて短期で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によつています。

(3) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により、算定する方法によつています。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成28年3月31日	平成29年3月31日
非上場株式	20,226	13,303

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めていません。

当連結会計年度において、非上場株式について6,922千円の減損処理を行っています。

(注3)金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	460,965	—	—	—
受取手形及び売掛金	1,276,579	—	—	—
合計	1,737,545	—	—	—

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	572,231	—	—	—
受取手形及び売掛金	1,387,961	—	—	—
合計	1,960,193	—	—	—

(注4)社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	502,442	403,769	304,857	169,156	55,409	86,480

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	495,017	423,841	300,693	200,987	71,862	77,820

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの			
①株式	98,991	78,566	20,424
②債券	—	—	—
③その他	—	—	—
小計	98,991	78,566	20,424
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの			
①株式	—	—	—
②債券	—	—	—
③その他	—	—	—
小計	—	—	—
合計	98,991	78,566	20,424

当連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの			
①株式	45,885	22,810	23,074
②債券	—	—	—
③その他	—	—	—
小計	45,885	22,810	23,074
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの			
①株式	52,392	55,755	△3,363
②債券	—	—	—
③その他	—	—	—
小計	52,392	55,755	△3,363
合計	98,277	78,566	19,710

2. 減損処理を行った有価証券

表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度として、退職一時金制度を採用しています。

この退職金の支払いに備えるため必要資金の内部留保の他に、中小企業退職金共済制度等に参加し、外部拠出を行っています。

当社及び連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しています。

当社及び連結子会社は、複数事業主制度の確定給付企業年金制度に参加しておりますが、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

なお、当社は、平成28年4月1日付で厚生労働大臣より設立の認可を受けた西日本機械金属企業年金基金へ加入しました。また、連結子会社は、東京鉄二厚生年金基金が平成28年9月26日付で厚生労働大臣より解散の認可を受けたことに伴い、平成28年10月1日付で西日本機械金属企業年金基金へ加入しました。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	180,690 千円	183,632 千円
退職給付費用	22,510 千円	32,791 千円
退職給付の支払額	△8,479 千円	△22,246 千円
制度への拠出額	△11,089 千円	△11,090 千円
退職給付に係る負債の期末残高	183,632 千円	183,087 千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成28年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成29年3月31日現在)
非積立型制度の退職給付債務	243,258 千円	251,128 千円
中小企業退職金共済制度等の給付見込額	△59,625 千円	△68,041 千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	183,632 千円	183,087 千円
退職給付に係る負債	183,632 千円	183,087 千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	183,632 千円	183,087 千円

(3) 退職給付費用

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
簡便法で計算した退職給付費用	22,510 千円	32,791 千円
退職給付費用 合計	22,510 千円	32,791 千円

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の中小企業退職金共済制度等への要拠出額は、前連結会計年度11,089千円、当連結会計年度11,090千円であります。

4. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度及び確定給付企業年金制度への要拠出額は、前連結会計年度39,426千円、当連結会計年度19,447千円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度 (平成27年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成28年3月31日現在)
年金資産の額	25,441,613 千円	— 千円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	35,094,472 千円	— 千円
差引額	△9,652,859 千円	— 千円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度 0.87% (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当連結会計年度 —

(3) 補足説明

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高13,732,782千円及び繰越剰余金4,079,923千円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は元利均等償却であり、当社グループは、当期の連結財務諸表上、当該償却に充てられる特別掛金23,304千円を費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しておりません。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

平成28年4月1日の設立であり、直近時点で金額が確定していないため、記載を省略しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産		
繰越欠損金	89,231千円	59,918千円
賞与引当金	15,150千円	14,437千円
役員賞与引当金	—千円	3,612千円
退職給付に係る負債	56,948千円	56,718千円
役員退職慰労引当金	7,368千円	11,197千円
ゴルフ会員権評価損	4,172千円	4,186千円
たな卸資産	2,127千円	1,372千円
土地減損	2,276千円	2,276千円
貸倒引当金	8,019千円	4,931千円
その他	7,222千円	11,211千円
繰延税金資産小計	192,517千円	169,863千円
評価性引当金	△168,350千円	△144,463千円
繰延税金資産合計	24,167千円	25,400千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△6,074千円	△6,011千円
土地・建物	△12,294千円	△10,991千円
その他	△87千円	△91千円
繰延税金負債合計	△18,456千円	△17,094千円
繰延税金資産(負債)の純額	5,711千円	8,305千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	33.0%	30.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3%	1.1%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.1%	△0.1%
住民税均等割	1.6%	2.0%
評価性引当額の減少	△30.4%	△18.2%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.4%	—%
その他	3.8%	0.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	8.6%	15.8%

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

事務所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から10年と見積り、割引率は、10年物利付国債利率1.095%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
期首残高	3,442千円	3,461千円
有形固定資産の取得・除去に伴う 増減額	一千円	一千円
時の経過による調整額	18千円	18千円
期末残高	3,461千円	3,479千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社及び連結子会社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。

当社グループは、当社が「建設・梱包向」として普通釘、特殊釘、各種連結釘、建築用資材、釘打機等の製造・仕入・販売を主な事業とし、子会社では「電気・輸送機器向」として精密機器用ネジ、自動車部品用ネジ、樹脂用ネジ等の製造・販売を主な事業としています。

したがって、当社グループは、会社事業体を基礎としたセグメントから構成されており、「建設・梱包向」、「電気・輸送機器向」の2つを報告セグメントとしています。

2 報告セグメントごとの売上高、利益、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高又は振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	合計
	建設・梱包向	電気・輸送 機器向	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,142,785	1,070,345	5,213,130	—	5,213,130
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19	3,084	3,103	△3,103	—
計	4,142,804	1,073,429	5,216,233	△3,103	5,213,130
セグメント利益	265,309	4,518	269,828	△185,391	84,436
セグメント資産	2,984,604	1,331,079	4,315,683	696,422	5,012,105
その他の項目					
減価償却費	68,753	86,895	155,648	6,597	162,246
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	110,281	23,826	134,107	—	134,107

(注) 1. セグメント利益の調整額△185,391千円は、セグメント間取引消去△114千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△185,277千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント資産の調整額696,422千円は、全て全社資産であります。全社資産は、主に余資運用資金(現預金等)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	合計
	建設・梱包向	電気・輸送 機器向	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,138,829	975,979	5,114,808	—	5,114,808
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,025	13,359	14,385	△14,385	—
計	4,139,855	989,339	5,129,194	△14,385	5,114,808
セグメント利益	360,387	1,829	362,217	△202,637	159,579
セグメント資産	3,059,087	1,287,548	4,346,636	814,693	5,161,329
その他の項目					
減価償却費	69,031	85,906	154,937	7,089	162,026
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	95,970	28,206	124,176	—	124,176

(注) 1. セグメント利益の調整額△202,637千円は、セグメント間取引消去△234千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△202,403千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント資産の調整額814,693千円は、全て全社資産であります。全社資産は、主に余資運用資金(現預金等)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しています。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しています。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
大東スチール株式会社	1,085,361	建設・梱包向

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しています。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しています。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
大東スチール株式会社	1,182,135	建設・梱包向

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の 関係 会社	伊藤忠丸 紅鉄鋼㈱	東京都 中央区	30,000	鉄鋼商社	(被所有) 直接 29.6	原材料・商品 の仕入先	原材料・商 品の購入	790,634	支払手形及 び買掛金	228,787
						製品の販売先	製品の販売	50,841	受取手形及 び売掛金	16,834
						役員の兼務				

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まず、期末残高には消費税等を含んで表示しています。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

原材料・商品の購入及び製品の販売については、市場価格等により決定しています。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の 関係 会社	伊藤忠丸 紅鉄鋼㈱	東京都 中央区	30,000	鉄鋼商社	(被所有) 直接 26.6	原材料・商品 の仕入先	原材料・商 品の購入	699,367	支払手形及 び買掛金	218,873
						製品の販売先	製品の販売	53,408	受取手形及 び売掛金	21,128
						役員の兼務	自己株式の 取得	46,000		

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まず、期末残高には消費税等を含んで表示しています。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

原材料・商品の購入及び製品の販売については、市場価格等により決定しています。

3. 自己株式の取得については、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による買付であります。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

該当事項はありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり純資産額	87.32円	95.56円
1株当たり当期純利益金額	12.21円	9.40円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	149,749	112,232
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	149,749	112,232
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,268	11,934

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	1,104,301	1,156,028
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	33,060	31,476
(うち非支配株主持分)	(33,060)	(31,476)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	1,071,241	1,124,551
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	12,268	11,768

(重要な後発事象)

子会社の吸収合併

当社は、平成29年2月24日開催の取締役会決議に基づき、当社の100%子会社である株式会社接合耐力試験技術センターを、平成29年4月1日付で吸収合併いたしました。

1 取引の概要

(1) 合併の目的

当社グループにおける経営及び業務の効率化を図るため

(2) 被合併企業の名称及び当該事業の内容

被合併企業の名称 : 株式会社接合耐力試験技術センター

事業の内容 : 土木建設材料・建築金物等の強度・物性・安全性の調査研究、耐力試験及び品質検査

被合併企業の財政状態(平成29年3月31日現在) : 総資産13,530千円 負債453千円 純資産13,077千円

(3) 合併期日

平成29年4月1日

(4) 本合併の方式

当社を存続会社とし、当該子会社を消滅会社とする吸収合併

(5) 合併後企業の名称

アマテイ株式会社

2 実施予定の会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行う予定であります。

⑤【連結附属明細表】

(イ)【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,080,000	1,080,000	0.6	—
1年以内に返済予定の長期借入金	502,442	495,017	1.0	—
1年以内に返済予定のリース債務	—	—	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,019,671	1,075,203	0.8	平成30年4月30日～ 平成38年2月20日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	—	—	—	—
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	2,602,113	2,650,220	—	—

(注) 1 平均利率は期末日残高の加重平均利率を記載しています。

2 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	423,841	300,693	200,987	71,862

(ロ)【資産除去債務明細表】

当該連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しています。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	1,201,441	2,456,425	3,839,162	5,114,808
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	30,605	55,395	109,716	131,412
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (千円)	23,516	46,588	94,283	112,232
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	1.92	3.85	7.86	9.40

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	1.92	1.93	4.05	1.53

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	433,424	525,282
受取手形	※2 390,394	※2 407,713
売掛金	※1 547,609	※1 609,762
商品及び製品	604,164	597,706
仕掛品	118,948	103,541
原材料及び貯蔵品	128,408	131,150
前払費用	10,678	9,050
関係会社短期貸付金	※1 81,000	※1 81,000
未収入金	969	252
繰延税金資産	12,155	18,941
その他	—	27
貸倒引当金	△3,390	△4,077
流動資産合計	2,324,362	2,480,352
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,220,888	1,222,483
減価償却累計額	△927,994	△943,615
建物（純額）	292,893	278,868
構築物	192,201	197,142
減価償却累計額	△156,744	△159,137
構築物（純額）	35,456	38,004
機械及び装置	2,504,208	2,495,979
減価償却累計額	△2,198,009	△2,177,814
機械及び装置（純額）	306,199	318,165
車両運搬具	65,226	61,520
減価償却累計額	△56,909	△54,896
車両運搬具（純額）	8,316	6,624
工具、器具及び備品	108,774	112,924
減価償却累計額	△87,887	△91,998
工具、器具及び備品（純額）	20,887	20,925
土地	528,095	528,095
有形固定資産合計	※2 1,191,848	※2 1,190,684
無形固定資産		
ソフトウェア	18,794	33,580
施設利用権	3,383	—
無形固定資産合計	22,178	33,580

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	48,166	46,111
関係会社株式	71,201	65,618
破産更生債権等	22,902	12,090
長期前払費用	120	4,741
会員権	17,000	17,000
その他	53,396	64,369
貸倒引当金	△22,903	△12,091
投資その他の資産合計	189,883	197,840
固定資産合計	1,403,910	1,422,105
資産合計	3,728,272	3,902,457
負債の部		
流動負債		
支払手形	124,540	138,636
買掛金	※1 492,036	※1 504,153
短期借入金	※2 1,303,024	※2 1,341,167
未払金	30,723	32,244
未払費用	36,507	37,227
未払法人税等	16,566	21,567
預り金	3,161	3,217
賞与引当金	47,312	45,970
役員賞与引当金	—	11,730
設備関係支払手形	26,307	28,891
設備関係未払金	31,491	7,830
その他	34,734	41,362
流動負債合計	2,146,405	2,213,998
固定負債		
長期借入金	※2 515,892	※2 549,870
繰延税金負債	6,074	6,011
退職給付引当金	155,147	154,795
役員退職慰労引当金	17,687	28,450
資産除去債務	3,221	3,237
固定負債合計	698,022	742,364
負債合計	2,844,428	2,956,363

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	615,216	615,216
資本剰余金		
資本準備金	40,181	40,181
資本剰余金合計	40,181	40,181
利益剰余金		
利益準備金	146,000	146,000
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	71,154	180,058
利益剰余金合計	217,154	326,058
自己株式	△3,058	△49,060
株主資本合計	869,493	932,395
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	14,350	13,698
評価・換算差額等合計	14,350	13,698
純資産合計	883,844	946,094
負債純資産合計	3,728,272	3,902,457

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)
売上高		
製品売上高	1,830,256	2,075,734
商品売上高	※3 2,312,547	※3 2,064,120
売上高合計	4,142,804	4,139,855
売上原価		
製品期首たな卸高	296,829	352,219
商品期首たな卸高	255,346	251,945
当期製品製造原価	※3 1,518,381	※3 1,593,353
当期商品仕入高	※3 1,899,183	※3 1,666,492
合計	3,969,740	3,864,011
他勘定振替高	6,681	6,297
製品期末たな卸高	352,219	360,845
商品期末たな卸高	251,945	236,860
売上原価合計	3,358,894	3,260,007
売上総利益	783,909	879,848
販売費及び一般管理費		
販売運賃	214,053	206,530
保管費	25,968	30,639
役員報酬	46,410	44,910
従業員給料	159,874	161,947
従業員賞与	13,416	18,769
賞与引当金繰入額	21,923	20,288
役員賞与引当金繰入額	—	11,730
福利厚生費	54,117	48,764
退職給付費用	6,911	13,749
役員退職慰労引当金繰入額	7,437	10,762
賃借料	29,363	29,300
修繕費	6,869	4,976
租税公課	14,575	16,735
旅費及び交通費	20,353	18,814
交際費	1,589	1,826
消耗品費	4,442	4,717
通信費	5,521	5,246
貸倒引当金繰入額	△345	1,225
減価償却費	21,181	20,445
その他	50,212	50,483
販売費及び一般管理費合計	703,877	721,864
営業利益	80,032	157,983

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
営業外収益		
受取利息	1,501	1,024
受取配当金	3,229	1,413
仕入割引	1,361	1,268
受取賃貸料	1,495	600
業務受託料	1,440	1,790
補助金収入	—	1,858
保険解約返戻金	4,424	2,556
その他	2,740	2,355
営業外収益合計	16,192	12,866
営業外費用		
支払利息	19,071	14,877
売上割引	7,098	6,233
その他	604	444
営業外費用合計	26,774	21,555
経常利益	69,449	149,294
特別利益		
固定資産売却益	※1 101,381	※1 48
特別利益合計	101,381	48
特別損失		
固定資産除却損	※2 8,364	※2 5,652
子会社株式評価損	—	6,922
その他	—	0
特別損失合計	8,364	12,575
税引前当期純利益	162,466	136,768
法人税、住民税及び事業税	16,395	22,382
法人税等調整額	△12,155	△6,786
法人税等合計	4,240	15,596
当期純利益	158,226	121,172

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	615,216	40,181	40,181	146,000	△87,072	58,927
当期変動額						
剰余金の配当					—	—
当期純利益					158,226	158,226
自己株式の取得						
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	—	—	—	—	158,226	158,226
当期末残高	615,216	40,181	40,181	146,000	71,154	217,154

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△3,022	711,303	51,762	51,762	763,065
当期変動額					
剰余金の配当		—			—
当期純利益		158,226			158,226
自己株式の取得	△36	△36			△36
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			△37,411	△37,411	△37,411
当期変動額合計	△36	158,190	△37,411	△37,411	120,778
当期末残高	△3,058	869,493	14,350	14,350	883,844

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	615,216	40,181	40,181	146,000	71,154	217,154
当期変動額						
剰余金の配当					△12,268	△12,268
当期純利益					121,172	121,172
自己株式の取得						
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	—	—	—	—	108,904	108,904
当期末残高	615,216	40,181	40,181	146,000	180,058	326,058

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△3,058	869,493	14,350	14,350	883,844
当期変動額					
剰余金の配当		△12,268			△12,268
当期純利益		121,172			121,172
自己株式の取得	△46,002	△46,002			△46,002
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			△651	△651	△651
当期変動額合計	△46,002	62,901	△651	△651	62,249
当期末残高	△49,060	932,395	13,698	13,698	946,094

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

① 子会社株式

移動平均法による原価法

② その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっています。

① 商品：総平均法

② 製品：先入先出法

③ 原材料・仕掛品・貯蔵品：総平均法

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法によっています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 3年～50年

機械及び装置 2年～10年

(2) 無形固定資産

定額法によっています。

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっています。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額を計上しています。

(3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額を計上しています。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき計上しています。退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

(5) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しています。

4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

※1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
短期金銭債権	97,834千円	102,306千円
短期金銭債務	229,819千円	220,444千円

※2 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 担保に供している資産

	前事業年度 (平成28年3月31日)		当事業年度 (平成29年3月31日)	
受取手形	308,549千円		223,063千円	
建物	285,671千円	(156,827千円)	272,472千円	(152,176千円)
構築物	32,684千円	(24,417千円)	34,960千円	(27,003千円)
機械及び装置	306,199千円	(306,199千円)	318,165千円	(318,165千円)
車両運搬具	8,251千円	(8,251千円)	6,559千円	(6,559千円)
工具、器具及び備品	13,953千円	(13,953千円)	15,311千円	(15,311千円)
土地	526,970千円	(15,193千円)	526,970千円	(15,193千円)
計	1,482,280千円	(524,842千円)	1,397,503千円	(534,409千円)

(2) 担保に係る債務

	前事業年度 (平成28年3月31日)		当事業年度 (平成29年3月31日)	
短期借入金	1,071,684千円	(1,071,684千円)	1,078,760千円	(1,078,760千円)
長期借入金	326,054千円	(326,054千円)	328,712千円	(328,712千円)
計	1,397,738千円	(1,397,738千円)	1,407,472千円	(1,407,472千円)

上記のうち()内書は工場財団根抵当並びに当該債務を示しています。

3 受取手形割引高

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
受取手形割引高	20,000千円	一千円

(損益計算書関係)

※1 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

固定資産売却益の内訳

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
機械及び装置	一千円	13千円
車両運搬具	一千円	35千円
福崎工場(兵庫県福崎町)	101,381千円	一千円
計	101,381千円	48千円

※2 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

固定資産除却損の内訳

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物	一千円	493千円
機械及び装置	8,023千円	4,925千円
車両運搬具	176千円	162千円
工具、器具及び備品	164千円	71千円
計	8,364千円	5,652千円

※3 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	50,860千円	54,434千円
仕入高等	795,619千円	715,052千円
営業取引以外の取引高	3,503千円	3,398千円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式13,226千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式20,149千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産		
繰越欠損金	53,352千円	23,403千円
賞与引当金	14,520千円	14,158千円
役員賞与引当金	一千円	3,612千円
退職給付引当金	47,320千円	47,212千円
役員退職慰労引当金	5,394千円	8,677千円
子会社株式評価損	57,750千円	57,750千円
ゴルフ会員権評価損	3,690千円	3,690千円
土地減損	2,276千円	2,276千円
貸倒引当金	8,019千円	4,931千円
その他	6,736千円	10,048千円
繰延税金資産小計	199,061千円	175,762千円
評価性引当額	△186,906千円	△156,821千円
繰延税金資産合計	12,155千円	18,941千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△6,074千円	△6,011千円
繰延税金負債合計	△6,074千円	△6,011千円
繰延税金資産(負債)の純額	6,080千円	12,929千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率 (調整)	33.0%	30.8%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3%	1.1%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.1%	△0.1%
住民税均等割	1.1%	1.3%
評価性引当額の減少	△32.3%	△22.0%
その他	0.6%	0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	2.6%	11.4%

(重要な後発事象)

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な後発事象)」における記載と同一であるため、注記を省略しております。

④【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	292,893	7,897	493	21,429	278,868	943,615
	構築物	35,456	4,941	—	2,392	38,004	159,137
	機械及び装置	306,199	52,195	7,414	32,815	318,165	2,177,814
	車両運搬具	8,316	1,650	226	3,116	6,624	54,896
	工具、器具及び備品	20,887	5,581	71	5,470	20,925	91,998
	土地	528,095	—	—	—	528,095	—
	計	1,191,848	72,265	8,205	65,224	1,190,684	3,427,461
無形固定資産	ソフトウェア	18,794	22,100	—	7,314	33,580	—
	施設利用権	3,383	—	—	3,383	—	—
	計	22,178	22,100	—	10,697	33,580	—

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	LED照明設置工事	7,082千円
----	-----------	---------

機械及び装置	インラインC/Cメチクロ回収装置3台	10,440千円
--------	--------------------	----------

	製釘機5台オーバーホール	9,240千円
--	--------------	---------

	針金連結パーツフィーダ更新	6,500千円
--	---------------	---------

ソフトウェア	生産販売システム構築	22,100千円
--------	------------	----------

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置	ネジ転造機10台	6,749千円
--------	----------	---------

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	26,293	1,225	11,350	16,168
賞与引当金	47,312	45,970	47,312	45,970
役員賞与引当金	—	11,730	—	11,730
役員退職慰労引当金	17,687	10,762	—	28,450

(注) 貸倒引当金の当期減少額の内60千円は、現金回収によるものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、大阪市において日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.amatei.co.jp
株主に対する特典	なし

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類並びに 確認書	事業年度 (第75期)	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日	平成28年6月29日 近畿財務局長に提出。
(2) 有価証券報告書の訂正報 告書及びその記載内容に 係る確認書	事業年度 (第75期)	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日	平成28年12月21日 近畿財務局長に提出。
(3) 内部統制報告書	事業年度 (第75期)	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日	平成28年6月29日 近畿財務局長に提出。
(4) 四半期報告書及び確認書	事業年度 (第76期第1四半期)	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	平成28年8月10日 近畿財務局長に提出。
	事業年度 (第76期第2四半期)	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	平成28年11月14日 近畿財務局長に提出。
	事業年度 (第76期第3四半期)	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	平成29年2月13日 近畿財務局長に提出。
(5) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項 第9号の2(株主総会における議決権行使の結果) の規定に基づく臨時報告書		平成28年6月29日 近畿財務局長に提出。
(6) 自己株券買付状況報告書	報告期間	自 平成28年8月3日 至 平成28年8月31日	平成28年9月15日 近畿財務局長に提出。
	報告期間	自 平成28年9月1日 至 平成28年9月30日	平成28年10月11日 近畿財務局長に提出。
(7) 自己株券買付状況報告書 の訂正報告書	報告期間	自 平成28年9月1日 至 平成28年9月30日	平成28年10月11日 近畿財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当する事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年 6 月28日

アマテイ株式会社
取締役会 御中

ネクサス監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 高 谷 和 光

代表社員
業務執行社員 公認会計士 森 田 知 之

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているアマテイ株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アマテイ株式会社及び連結子会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、アマテイ株式会社の平成29年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、アマテイ株式会社が平成29年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (※) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成29年 6月28日

アマテイ株式会社
取締役会 御中

ネクサス監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 高 谷 和 光

代表社員
業務執行社員 公認会計士 森 田 知 之

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているアマテイ株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第76期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アマテイ株式会社の平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (※) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成29年6月28日
【会社名】	アマテイ株式会社
【英訳名】	Amatei Incorporated
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藪内 茂行
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	兵庫県尼崎市西高洲町9番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長 藪内 茂行は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について(意見書)」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成29年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しています。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社及び連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社1社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している事業拠点を「重要な事業拠点」としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい特定の取引又は事象に関する業務プロセスを、財務報告への影響を勘案して、個別に評価対象に追加しています。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成29年6月28日
【会社名】	アマテイ株式会社
【英訳名】	Amatei Incorporated
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藪内 茂行
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	兵庫県尼崎市西高洲町9番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 藪内 茂行は、当社の第76期(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。